



81.4.7

No. 709

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)

(鉄電)二九三五ノ六(公電)四三二二七二〇七

# 政府・当局の「公報紙」になり下った読売朝日新聞!

## 動労千葉破壊反動キャンペーンを許すな!

全組合員、家族のみなさん。

四・三大量不当処分に対し、新たな怒りを燃えたたせ、動労千葉組織解体を狙った未曾有の政治的報復処分攻撃粉碎にむけて限りない団結をもってたたかいたかぬころではないか。すでにたたかいは六日零時を期して突入し、弾圧・処分、反動労千葉キャンペーンに抗し断固としてうちめかれている。

## 政府支配階級の憎悪を体現した、読売・朝日の「社説」

今回のわが動労千葉への政治的報復処分ともいふべき反動攻撃の狙いを、政府・国鉄当局になりかわって階級の憎悪をむきだしにした「動労千葉破壊」孤立化等を反動的におおっているのが読売・朝日の四月四日付「社説」である。

いわく「理不尽ストにけじめをつけた国鉄」(読売)、「動労千葉を正常な労組に戻せ」(朝日)と絶叫している。

この二紙に共通した論調は、「労働者は政治ストをやるべきでない」「労働組合は国策に協力すべきである」「当局も労組もあらゆる手段で燃料輸送に努力するのは当然の義務である」「労組は国鉄再建に協力せよ」「動労千葉はイデオロギー過多の組合である」「動労千葉の立て直しに組織を破壊せよ」「当局は対話や研修にマル生攻撃を推進せよ」という内容である。

つまりこれは、社会の公器たる新聞がその地位を利用して政府・当局のお先棒をかついで「公報紙」と化し、動労千葉破壊の道具になり下ったのである。

労働組合が政治闘争を否定するならばどんな時代になるのか。われわれは、あの聖戦に名を借りた「大東亜戦争」侵略戦争の尖兵として労働組合が産業報国会となつたという恥ずべき歴史を経験している。わ

三里塚を軸にする全国の心ある人々は、「動労千葉を守れ」と全国津々浦々で反処分抗議行動に決起している。反処分、動労千葉組織解体攻撃粉碎の勝利の陣型はますます強化されている。勝利の確信はますます整然かつ断固として長期強靱なたかきを貫徹しよう。動労千葉の底力を反動どもに思い知らせてやろう。

それゆえに労組の果すべき任務として、労働条件・賃上げ獲得はもちろんのこと、反戦・政治闘争をもたたかわねばならないのである。

それは新聞社自身もあのいまわしい「大本営発表」をくりかえした反省から今日あるのではないか。

さらに「イデオロギー過多の動労千葉」等ということを通じて許せない。

空巷・沿線周辺住民を騒音等々の公害で苦しめ、農民から農地を強奪し、自らが決めた閣議決定すらも反古にして法をじゅうりんする非道な政府・当局に対し労働者労働組合として抗議することは当然の権利であり人間的行為である。

しかも「国策・国鉄再建に協力せよ」ということは、われわれに奴隷になれと強要することである。

こうした反動的キャンペーンに抗し、真に労働者が社会の主人公として大手をふるって歩ける時代を創出するためにたたかひぬこう。

全組合員、家族のみなさん!  
権力・当局・動労本部スト破り集団の組織破壊攻撃を許さず、81春闘を闘いぬこう!